

本島伝説

ゆるぎ岩観音様(西国三十三観音霊場めぐり 1番札所)

岩に彫られた如意輪観音はその頬に手をついていた姿から歯痛の仏様として親しまれ、またその上に乗った大岩が指1本で揺らぐところからその名前がついた。

昔のお話です。生の浜から少し入ったところに、「ゆるぎ岩観音様」と呼ばれる珍しい岩があります。岩には、磨崖仏で如意輪観音まがいぶつ にょいりんかんぜおんが彫られ、島内の西国第1番札所になっております。

この観音様は、「歯いたの神さま」と云われ広く信仰されております。歯で苦しんでいる人たちがやってきて岩の前にひざまずき、手を合わせ「観音さま、歯がいたくて困っております。どうかお助けください。」といて先にあがっていますお線香の灰を頂いて帰り、痛い歯の頬になすりつけます。すると、不思議なことに一晩のうちに、どんな痛みも嘘のようにとれてしまうそうです。

このお札には、お線香を倍にして持っていくならわしになっています。歯痛にご利益があるものと見えまして、お線香の煙がいつも絶えなかったそうです。



ゆるぎ岩観音さま